



*画像はイメージ

攻めのコスト削減！LEDサインメーカーのAIシミュレータ戦略

今回の事例も最初は「業務フローの時短」だった。
このLEDサインメーカー様の「コストカット」に対する貪欲なまでの要求は凄い。
だからこそ急成長されておられるのだろう。

(守秘義務があるので、詳細は避けるが、)

LEDサインメーカー様へお客様である企業からの入る注文は全て「バイ・オーダー」となる。
つまりオーダー毎にゼロから設計しなければならず、この設計図を作成する為の工程が非常に複雑なのだ。設計図の各工程毎に、自動化で「コストカット」を徐々に実現していき、開発した各ツールが遂に設計フローの必須ツールとなった。

しかし、間髪入れず次の要求が来る。

LEDサインは様々な企業ロゴやマークとなり、さらにその大きさには1つとして同じモノがない。
従って、都度、試作品を作成して光り具合を確認しなければならないのだ。この確認には、アナログな目視確認と手動による光度測定器を使用する必要があった。

何と、この試作品を作成する業務をそっくり無くしたい！というのが次の要求だった。

つまり試作品を作らなくても良い「3Dシミュレータ」の開発だったのだ。

クオリティを追求されるLEDサインメーカー様から、合格を頂ける3Dシミュレータ」までには
試行錯誤の連続だったが、何とか半年でようやく「3Dシミュレータ」完了。

ただし、これさえも始まりにすぎなかったのだ。この「3Dシミュレータ」の完成によって、今度はシミュレータ結果をつかったAI（人工知能）による設計自動化の要求となったのだ。すでにこれは「コストカット」などと呼べるレベルではなく、攻めの経営戦略と言っても過言ではない…世の中にはなんと凄い企業があるだろうか？